

1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成

- ・ 保育園園長 (1)
- ・ P T A 会長 (1) ・ 副会長 (2)
- ・ 区長会代表 (1)
- ・ 地区体協会長 (1)
- ・ 民生委員 (1)
- ・ 自治会会長 (1)
- ・ 学識経験者 (1)
- ・ 校長 (1) ・ 教頭 (2)
- ・ 地域コーディネーター (1)
- 青葉の笛保存顕彰会会員、元教員

(2) 協議会の内容

- 5月28日 組織づくりと年間計画の作成、重点評価項目の承認
- 8月1日 星空観察会
- 9月8日 合同体育大会の参観
- 11月19日 学校評価アンケートの検討
- 12月～1月 学校評価結果に対する意見、提言
- 2月18日 次年度への提言

(3) 協議会における成果と課題

定例の協議会の他に、学校公開日にも来校いただき、学校や子どもたちの様子を見ていただくことができた。また、学校評価の際には温かいご意見をたくさんいただいた。次年度の学校運営に生かしていきたい。協議会の方の負担が増えすぎないように配慮していく必要がある。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

和泉小・中学校では、「和泉に生まれ育ったことを誇りに思う教育の推進」を掲げている。今年度は、「和泉の強みを生かし、一人一人を輝かせよう」を新たに教育目標として設定した。少人数の環境を生かしたり地域の人材を活用したりする中で、和泉の強みをさらに発掘し、それを最大限に生かし、子どもたち一人一人の良さを最大限に引き出し、伸ばしていく教育の推進が目的である。本事業も3年目を迎え、これまでの取り組みの集大成となるように、また児童生徒がより主体的に地域のために活動できるように工夫することをねらいとして取り組んできた。

(2) 活動の実際

① 昇龍太鼓 (小学生)

昇龍太鼓は、和泉地区に伝わる伝統芸能である。高学年の児童が低学年の児童に、ばちのさばき方や威勢のいいかけ声のかけ方を教え、自分たちで演奏を仕上げていく。高学年だけの演奏は、力強い太鼓の音と壮大なリズムで、大空に昇っていく龍を堂々と表現している。それを見ている低学年の児童は、昇龍太鼓がより身近なものに感じ、自然と練習にも力が入っている。自分たちで太鼓のたたき方を教え合ったり、呼吸を合わせてたたく練習をしたりして、子どもどうしで演奏を仕上げていくことは、主体的な態度を養うにはとても効果があったと考えている。「和泉地区敬老会」「紅葉まつり」「ふるさと芸能発表会」で演奏し、訪れた人から大きな拍手をいただいた。



(様式3)

②九頭竜紅葉まつり（中学生）

10月27日に第40回九頭竜紅葉まつりに、和泉中学校として出店し、焼き芋を調理し販売した。紅葉まつりへの参加は歴史と伝統がある行事であり、学校をあげて取り組む一大イベントである。4月に生徒の実行委員会を立ち上げ、3年生から店長を2年生から副店長を選出し活動がスタートした。5月には畝作りや苗植えを行い、10月に収穫した。今年は例年以上の豊作で、多くの焼き芋を販売することができた。事前に調理や接客方法についても学習した。また、観光客に対して大野市や和泉地区のPR活動も行うなど、コミュニケーション力の育成にも力を入れた。小雨の降る中、たくさんのお客さんがブースの前に並び、予定していた以上に早く完売することができ、生徒たちも大きな達成感を味わうことができた。



(3) 地域コーディネーターの活動概要

本校の地域コーディネーターは元教員で青葉の笛保存顕彰会会員を務め、家庭・地域・学校協議会の会員も兼任している方である。1年を通して、地域行事に関するアドバイスをいただいている。5月に開催される「九頭竜新緑まつり」でのしの笛演奏に向けて、しの笛の吹き方を指導していただいた。青葉の笛保存顕彰会の皆さんは、笛を吹くときの姿勢や指の押さえ方など丁寧に教えてくださり、上手に演奏できるようになった。また、全国中学校スキー大会に出場する3名の生徒への応援幕の作成を有志に呼びかけていただき、長さ6m、幅1.2mの大きさの応援幕を手作りで作成し、九頭竜湖駅隣接の「ふれあい会館」に掲げていただいた。

(4) 特に工夫した事項

- ・どの活動も本校の伝統行事であるが、その完成度をさらに高めるためにも、児童・生徒のアイデアを大切にし、やってみたいことや改善したいことなどの意見を積極的に取り入れるようにした。また、活動後は全員で成果や課題について振り返り、次年度の活動がさらに発展するための提言を行った。
- ・児童・生徒数が減り、一人一人の役割や負担が増えていく中で、行事のそのものの精選ややり方を工夫する意識を持ちながら、学校の現状に応じた活動になるよう心がけた。

(5) 成果と課題

和泉地区には児童・生徒が参加できる地域活動や行事が数多く存在し、本事業でもそれらの活動を中心に展開してきた。どの活動も長きにわたって継続できているが、その陰には地域の方々の絶大な協力が要因としてある。保護者のみならず、多くの方々が学校に足を運んでくださり、惜しみなく支援の手を差し伸べて下さるおかげで、どの行事も毎年大成功を収めることができている。このように児童・生徒は行事を通じて地域の方々とふれあう中で、新しい知識を得たり貴重な体験をしたりすることができている。そして、このふれあいを通した学びこそが本事業の最も大きな成果であるといえる。また、活動の中で和泉の伝統や地域の方々の温かさにふれることは、地域に愛着と誇りを持つ大きな原動力にもなっている。課題としては、児童・生徒数の減少がある。中学校の焼き芋販売では、1人にかかる負担が大きくなり、教師の支援が欠かせなかった。主体的な活動を目指す一方で、教師がお膳立てしなければいけない場面もあり、何を目的とした活動なのかが不明瞭になってしまうことがあった。

(様式 3)